湖月抄

うつそみ

內閣文庫

空蟬 并一

此巻ハ源氏十六歳の夏乃事なり。汲数為巻名

空ちゝの男ぢくてぞうまれける人ぐしれるけしきなれ

并の紙ハ花撰とゝ云ぐ乃和語を面松の物語乃ことゝ但

此物語ハ竪乃并あり。此物語よハ并よ三の品あり。二

よハ竪。三ハ撰。三よ撰竪とゝねゝり。竪とハ式巻の数なり。式

巻ハ帚木の末乃ものを云ゝ。撰とハ蓬生の末の数なり。

ゝゝつくし乃初の時ふたゝびを云ゝ。是ハゝゝつくしの乃ち光

よまべきものゝそこにゝれねバ別よ一巻とゝゝも也。撰竪とゝね

ゝゝハ未摘花の末乃数也。ゝゝめよい若紫ゝり末のものあり。末よ

ハ若紫ゝり後のものあり。並のものハ史記の本記乃外よ列傳を

ゝゝ云ものゝよ也。

花 帚木巻の初の段よ見ゆ

細 中河のやゝりにゝゝ

ゝくのものゝ

ゝれハ人ゝ人ゝ

細 源氏の好色と自稱しゝ

ゝゝ。幾源氏の君のゝれよ

ゝゝ人なゝくいゝゝこと

の自稱よハ次小君を

ゝゝゝんの料也

よゝゝひゝゝ

細 小君ゝゝ段空蟬のて

さゝゝのゝひよゝゝ似

通ゝゝゝ

ゝゝゝ

師説 これ帚木の巻ゝゝれ

ゝんとゝよゝとゝて

いゝくのものゝゝゝ

ゝてゝゝ一ゝゝれて

ゝゝゝ

ゝんとゝ

ものゝゝゝゝゝ

細 前のやゝゝものゝゝゝ

空蟬のてゝゝ

小君よゝゝ

空蟬の方遠よ空蟬と云ゝ

空蟬の方と云ゝ

空蟬のゝゝ

小君

ゝゝゝ

ゝゝゝ

ゝゝゝ

まとひ涙に纏也

女ともなくるるもて幾晋通の人うもあるぬ表人とおもそこと八空蟬乃やうなるくたるーこうる

細空蟬も為ーこうて音信もなきとうこれうり思ひく

うれ行ゆく

細くて絶果るんとそ

で又絶も思ひるるれざるくし

うれうくを

孟慨哉 慨哉 以上日本紀

とうこれ

孟将計 方便

なくしでて源氏行くめくくるくて

こをくめくして

細空蟬のなくまくくるくる思なく

人とおくそこと八空蟬乃

やうくくるくて

細空蟬も為ーこうて音信もなきとうこれうり

思ひく

うれ行ゆく

細くて絶果るんとそ

で又絶も思ひるるれ

ざるくし

うれうくを

孟慨哉 慨哉 以上日本紀

とうこれ

孟将計 方便

源氏行くめくくるくて

こをくめくして

細空蟬のなくまくくるくる思なく

人とおくそこと八空蟬乃

やうくくるくて

細空蟬も為ーこうて音信もなきとうこれうり

思ひく

うれ行ゆく

細くて絶果るんとそ

で又絶も思ひるるれ

ざるくし

うれうくを

孟慨哉 慨哉 以上日本紀

とうこれ

孟将計 方便

秘

つくくるくもうくくるくまつくくるくとうもてとうひて小君りたんるるくるくう頭掌ヤ也

きのくるるうり

細源氏ものくるくも源氏とくくく

ごぶつあるハかりと
細小君の入さう弦を義ハ
ハかり人もしそ又しをを
へさ地とし女房をの之
うしの侍方の
細仔子外乃むをめ新摺
の萩かり空蝉のまし子
この家乃面のさまあ之
ゆそをめうしうや
碁うしをせうん
五博物志云堯造圍碁
あさ海よ 細昨今係之
つこの方うりをじひ
て面乃方へ又落かり
をやの中柱 かあくかり
しの者に若面く
こさあつの
花女房の裝束六月六月
ようかくうねをう
かりひとへ一と切り
うくるうろ切かり氏時ハ
うくひとへとうだこ
さしいろ紅こうきのう
かりだこき紫よそめうう

つやどれしそ係氏とく
くまうりて我ハこるこれをこ
の中うりうしこそ光のこりてうりぬこ
ぶうしへハかりとつのなり 細小君の云く
よこみうしいかうこれうこくへひうう
面のれうこれうこせうて碁うこと面
姫といみざそ係今くむうひぬうこんとみがやしかひ
て ややうこあめこいでこそれのこぶ面よう
係ぬこのいうつうこしこまぎ作こねこひ
まこりたそかーざ面よみことこ
ばこのこつこうこ屏風もうしのこを
しうまれうにかこうべきまこ丁ちしこもお
ひこれべあやううけくいこうくこれうう

ゆうこ 細小君の云く

ゆうこ 細小君の云く

ゆうこ 細小君の云く

ゆうこ 細小君の云く

ゆうこ 何海よ紅のこうこ
ほこれこういうこかうえ
作うり
行ようあうん 細ひとうこね
の上ようハこうこも若こう
流あこうこもうこうげう
こうこうよこうわうぬこ
ゆつこ 細碁とかよハは
あうハかうこうこも雑紅
よりうこをうり用云淡う
うあこう淡く
今ひうりハ 細彩くの萩之
うこの方うり又落かり
よひうむこうこうふ
おりうくこうとこれあうい
ゆこあひの 細二藍こうこう
ここふく同うこうくあう花
あこ花二色よそむうこを
うり花こうこうこハ唐衣
とこ也こう付表着のこう
う唐衣の代う着こ
ゆかうりここ
こうこうこうこう 細何海よハ
傍側ここ花色うりハ紅

ゆうこ 細こんハ空蝉く
ゆうこ 細空蝉の身こうこ形く
ゆうこ 打下ろうこう紅流後のひこうこ

歌なりまさりてきくに
こりうるむしとなく鈴れ
とも傍側れ宜敗勇者無
人のんなりくさんてくう
ゐ不なるさゐなりんへ
そくろう 細をこーたくさや
うゐや に失ルド しけのる
さゐ面をゐさや
むんこそやくの 細 ゐなし
八段可然むをめしこそ
ゐーくゐ路へんらそ松
つなうゐをとそくそや
細 人八ゐ面もり八用を
こしくゐなりゐ人へ
ゐこうゐゐ方ゐうゐ
ゐゐくこゐうゐきをこ
へくきるく
ゐーくゐ路へしゐとゐ
て公くへーゐうなるん
とそくやしい人の性
ををーへうこくへ
うくなるさゐあるゐ
細 一しなるさゐうゐあるき

なりくるーせいこゐうーおーーげよつゐ
くとゐてそごろゐなりくへのーらつきひ
さいつきりのゐごやうよゐまこゐうつきいてあ
うづきくるやうるうゐうゐなりうくこい
いてゐやうゐてるぐくゐあーねどさごりばゐ
細 こごりくゐ面こ表のゐう絢
この浪ごいこきよけよをべていこ初ゐけ
孟 細 ゐーくゐ不ゐうくき
ゐ無なくゐーげるくへこくこうゐむべこ
そゐやの世よなくへゐゐーくみ
孟 筆草子の評
絡ゐゐごりるけとそくごゐやそくと
細 清て後
けゐきゐひくこゐ
孟 心疾心早
孟 早速
くきうごけゐゐくのひとへいこきゐう

かりこれも拾うえたくく
ゐうきゐ次 孟 圍碁の辯
又闕 幾 闕 ハだ目をゐ次
ーり 辯 ハうこむうく
ゐくの人 細 空蟬 之 哭 幾
ゐのくかくへーゐるの
幾有不審
奥の方にむくゐ人くゐの
ゐありゐ多南向の家ゐ
てくくーくゐうひて糸
のふーりにゐうくゐや
ゐくくくゐゐ 細 地ーゐ
ゐの三世ゐい拾合ゐーゐ
ふかくゐくへ
くくひ くくゆひくくくゐな
のんゐくへーん

孟 拾つゐくん
細 彩端の萩の図
細 源氏のえうゐ不のうゐ
彩端萩
十 二十 三十 四十
孟 ゐゐくくく

[illegible]

日本紀 垣間見 万葉

小君いてうろ 細 小君ゐざり

[illegible]

[illegible]

こうちそそ[illegible]
内のうちなどうて

[illegible]
実目[illegible]れ
[illegible]
源氏と空蝉のこえかり
[illegible]
細 源の小君よりもこの[illegible]
と向ひて

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

拾遺 君をのみ思ひのこころ深の
夜しかりけるつぐる
鶴の声
きるるしぬこのめも
細 しらいさわ知らいるぐるよ
くくれてまいこのめも
いとなりもをひ方結
叶くり河海よえてい
いとるくいいとるとこ

やとこいりまくとれどこれをびまわる秋
のはぞ乃ろくひやくくくもいところ
りもり安いくくとれまのとれし
くるひなをどおやくくあのくなる
くくんくくれるくりかくこれめて忘けば
るふぐるくれ初くれどれんひくるたるよ
るは初くくあぐくなれどまるくぬこれめも
いくなくくるげくくたごくくつくくくこ
ひてくくるくくみくいかくくくくくくく
ひてねくくくくくくくくくくくくくなくく
くまどくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく
なくくくくくくくくくくくくくくくくく
ひくくひくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく

かいの人と　細　往来とて
ゝゝてゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細 空蟬のつゝみ中ゆゑ小君を今は表とやひそめまし

[illegible]

まゝ[illegible]この話と　実は小君とわすれ草[illegible]

しくのまゝとうてけり

空蟬の身とうてけり

細 空蟬は蟬の抜殻也　又万葉集中大兄三山の歌　又虚蟬も嬬乎相格良思吉とあり　又蟬蛻と書　孟文選蟬蛻と書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]